

令和4年5月5日

各 位

日本小児肝臓研究会
運営委員長 虫明 聡太郎

日本小児栄養消化器肝臓学会
理事長 清水 俊明

小児の原因不明の急性肝炎について

先日、欧米において小児の原因不明の急性肝炎事例が多数発生していることが世界保健機構（WHO）より報告されました。その発生原因の一つとしてアデノウイルスの関与も疑われていますが、未だ明確な病因はわかっておらず、現在さらなる調査が進められています。

日本でも同様の小児の急性肝炎の発生、あるいは増加を危惧する報道がなされていますが、日本での発生事例と欧米での報告例との間に考慮すべき共通点があるのか、また、特定のウイルス感染との関連性の有無に関しましては、現段階では不明です。

日本では従来から年間20例前後の小児の重症急性肝炎症例が発生しており、その半数がA-E型肝炎ウイルスの関与が否定された成因不明例です。したがって日本でWHOの暫定症例定義に合致した非A-E型の小児急性肝炎が発生した場合、欧米の肝炎流行例と類似した症例であるか否かを明らかにするためには、各症例について詳細な調査・研究を進める必要があります。日本小児肝臓研究会および日本小児栄養消化器肝臓学会では疑わしい症例について精査を行うべく準備を進めています。

WHOからは、急性肝炎を判別する目安として血清AST, ALTが高値（500 U/L以上）であることが示されていますが、重症の急性肝炎では他に血清ビリルビン値の上昇や血液凝固能の低下といった検査値の特徴が現れることが一般的です。したがって、嘔吐や下痢、発熱といった胃腸炎症状や感染症症状がみられる小児に肝機能異常、黄疸、血液凝固能異常が認められる場合は、小児の肝臓疾患診療に詳しい医療機関を早めに受診するようご留意下さい。お近くの専門医療機関が不明な場合は添付した本研究会関連施設の名簿をご参照ください。ご不明な点につきましては本研究会もしくは本学会事務局までお問い合わせ下さい。

日本小児肝臓研究会ホームページ square.umin.ac.jp/j-sph/
日本小児栄養消化器肝臓学会ホームページ <https://www.jspghan.org>